

建築物の既設の塀（ブロック塀や組積造の塀）の安全点検について

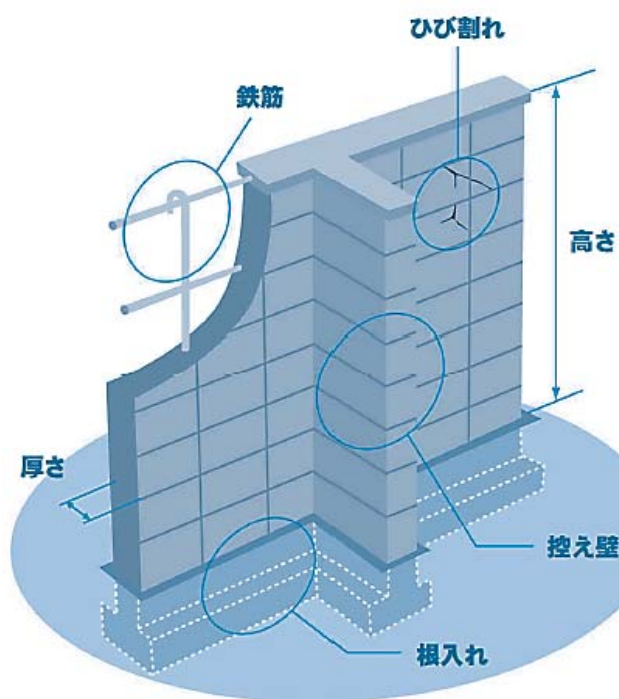
6月18日に大阪府北部を震源とする地震において、ブロック塀の倒壊により歩行者が被害を受け亡くなりました。既設の塀（ブロック塀や組積造の塀）については、所有者等が自ら安全点検を実施し安全を確保しなければなりません。

☆ 自主的な安全点検の実施について

- ① 「ブロック塀等の点検チェックポイント」を確認してください。
- ② 安全点検の結果、危険性が確認された場合には、速やかに注意表示を行うと共に、計画的に補修・撤去等に取り組んでください。

特に、通学路や避難所等への通路沿いに設置されているブロック塀等については速やかに実施してください。

ブロック塀等の点検のチェックポイント



出典：
パンフレット「地震からわが家を守ろう」日本建築防災協会 2013. 1 より一部改

ブロック塀について、以下の項目を点検し、ひとつでも不適合があれば危険なので改善しましょう。
まず外観で1～5をチェックし、ひとつでも不適合がある場合や分からないことがあれば、専門家に相談しましょう。

- ☐ 1. 塀は高すぎないか
・塀の高さは地盤から2.2m以下か。
- ☐ 2. 塀の厚さは十分か
・塀の厚さは10cm以上か。（塀の高さが2m超2.2m以下の場合は15cm以上）
- ☐ 3. 控え壁はあるか。（塀の高さが1.2m超の場合）
・塀の長さ3.4m以下ごとに、塀の高さの1/5以上突出した控え壁があるか。

- ☐ 4. 基礎があるか
・コンクリートの基礎があるか。
- ☐ 5. 塀は健全か
・塀に傾き、ひび割れはないか。

<専門家に相談しましょう>

- ☐ 6. 塀に鉄筋は入っているか
・塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも 80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされているか。
・基礎の根入れ深さは30cm以上か。（塀の高さが1.2m超の場合）

組積造（れんが造、石造、鉄筋のないブロック造）の塀の場合

- ☐ 1. 塀の高さは地盤から1.2m以下か。
- ☐ 2. 塀の厚さは十分か。
- ☐ 3. 塀の長さ4m以下ごとに、塀の厚さの1.5倍以上突出した控え壁があるか。
- ☐ 4. 基礎があるか。
- ☐ 5. 塀に傾き、ひび割れはないか。

<専門家に相談しましょう>

- ☐ 6. 基礎の根入れ深さは20cm以上か。

☆ 住宅の耐震化について

本町は、昭和56年5月以前に着工された木造住宅を対象に、耐震診断は無料で、また、耐震改修設計、耐震改修工事、耐震シェルター設置には補助を実施しています。

なお、現行の基準に適合していないブロック塀の改修について、住宅の耐震改修工事と合わせて行う場合は、補助対象に含むこととしておりますのでご活用ください。

※次ページの『ブロック塀の診断カルテ』を使い自宅の塀を診断してみましょう。

わからないことがありましたら、交通防災課（66-3417）まで連絡をお願いします。

ブロック塀の診断カルテ

A. 基本性能の診断〔基本性能値〕

診 断 項 目	基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	10 ①
	10以上、20年未満	8 ()
	20年以上	5
高さの増積み	なし	10 ②
	あり	0 ()
使用状況	塀単独	10 ③
	土留め・外壁等を兼ねる	0 ()
塀の位置	塀の下に擁壁なし	10 ④
	塀の下に擁壁あり	5 ()
塀の高さ	1. 2m以下	15 ⑤
	1. 2mを越え、2. 2m以下	10 ()
	2. 2mを越える	0
塀の厚さ	15cm以上	10 ⑥
	12cm	8 ()
	10cm	5
透かしブロック	なし	10 ⑦
	あり	5 ()
鉄筋	あり	10 ⑧
	なし	0 ()
	確認不能	0
控え壁・控え柱	あり	10 ⑨
	なし	5 ()
かさ木	あり	10 ⑩
	なし	5 ()
基本性能値 (①～⑩までの評価点の合計) [A]		

B. 壁体の外観診断〔外観係数〕

診 断 項 目	基準係数	評価係数
全体の傾き	なし	1.0 ⑪
	あり	0.7 ()
ひび割れ	なし	1.0 ⑫
	あり	0.7 ()
損傷	なし	1.0 ⑬
	あり	0.7 ()
著しい汚れ	なし	1.0 ⑭
	あり	0.7 ()
外観係数 (⑪～⑭の最小値) [B]		

C. 壁体の耐力診断〔耐力係数〕

診 断 項 目	基準係数	耐力係数
ぐらつき ^{※1}	動かない	1.0
	わずかに動く	0.8 [C]
	大きく動く	0.5

※1 診断する場合は、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。

D. 保全状況の診断〔保全係数〕

診 断 項 目	基準係数	保全係数
補強・転倒防止対策等の有無	あり	1.5 [D]
	なし	1.0

診断結果の判定

1. 総合評価点(Q)を求めましょう。

基本性能値 A	×	外観係数 B	×	耐力係数 C	×	保全係数 D	=	総合評価点(Q)
------------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	----------

2. 総合評価点(Q)から、診断結果を判定しましょう。



安全性の判定と今後の対応

チェック	総合評価点	判 定	今 後 の 対 応
☐	Q ≥ 70	安全である	3～5年後にまた診断して下さい。
☐	55 ≤ Q < 70	一応安全である	1年後にまた診断して下さい。
☐	40 ≤ Q < 55	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策等を請じて下さい。
☐	Q < 40	危険である	早急に転倒防止対策を請じるか、撤去して下さい。

※ 診断結果は、あくまでも目安です。専門家による精密診断を受けると、より正確に判定できます。

出典：全国建築コンクリートブロック工業会